令和元年度 学校評価報告書

学校教育法第42条、第43条及び第133条並びに学校教育法施行規則第66条、第68条及び第189条に規定される学校評価を実施した。評価は、東濃看護専門学校の学校評価の方針(平成30年3月)に従い、自己評価、自己点検、個別行事総括により構成する。

〈自己評価〉

1 評価の方法

(1) 評価者

副学校長、専任教員8人、事務職員3人のうちから、評価項目ごとに、その項目に精通した教職員・精通すべき教職員を選び、評価者とした。

(2) 評価時期

令和2年2月1日~令和2年2月25日 (中間評価:令和元年10月18日)

(3) 評価表

自己評価表を用いて評価した。

- (4) 評点
 - 1) 評価項目の達成状況

評価項目の達成状況を次の3段階に評価した。不十分と評価したときは、その理由をコメントとして記述した。

- ・ 達成(評価項目の求めるレベルを達成している、現在の達成度を維持する)
- 取り組み中(課題の解決に取り組んでいる、達成のレベルに到達していない)
- ・ 不十分(取り組みが不十分、未着手)
- 2) 評価項目の適否

評価項目が適切であるかを次の 2 段階に評価した。否と評価したときは、その理由をコメントとして記述した。

- ・ 適(適切な評価項目)
- 否(不適切、不要、評価不能、将来に亘って達成が困難な評価項目)
- 2 評価の結果
 - (1) 評価項目の達成状況
 - 1) 評価表

末尾 学校評価自己評価表(評価項目の達成状況)

2) 評価結果

79評価項目の達成状況は、次のように評価された。

• 全評価者が達成と評価した項目

5 項目

60 項目

・ 評価者の 2/3 以上が達成と評価した項目

•	評価者の	1/2 以上	が達成と評価した項目	69 項目
---	------	--------	------------	-------

・ 全評価者が取組中と評価した項目 2 項目

・評価者の 2/3 以上が取組中と評価した項目 7 項目

・ 評価者の 1/2 以上が取組中と評価した項目 9 項目

• 達成と評価した評価がない評価項目 2項目

・1人以上の評価者が不十分と評価した項目数 2項目

• 複数の評価者が不十分と評価した項目 1 項目

(2) 評価項目の適否

1) 評価表

末尾 学校評価自己評価表(評価項目の適否)

2) 評価結果

79 評価項目の適否は、次のように評価された。

・ 全評価者が適と評価した項目 72 項目

・1人以上の評価者が否と評価した項目 4項目

・複数の評価者が否と評価した項目 0項目

(3) コメント

1) 評価表

末尾 学校評価自己評価表(コメント)

2) 評価結果

コメント数22件

コメントが記載された項目20項目

・ 不十分又は否の評価に付されたコメント数 7件

(4) 評価項目以外の課題

評価表の評価項目以外に、解決すべき課題、検討すべき課題として、次の1件が提案された。

• 学校の存続について問合せがある。早急に、公開できるようにしてほしい。

〈自己点検〉

1 評価の方法

(1) 評価者

点検項目ごとに、その項目に精通した教職員・精通した教職員が評価し、教務主任が総括した。

(2) 評価時期

令和2年1月~2月

(3) 評価表

看護師養成所(2年課程)自己点検表(岐阜県、平成27年)を用いた。

(4) 評点

適、否、該当なしの3段階に評価した。

- 2 評価の結果
 - 1) 評価表

末尾 看護師養成所(2年課程)自己点検表

2) 評価結果

199 点検項目は、次のように判定された。

・適と判定した点検項目187 項目・否と判定した点検項目4 項目

・ 該当なしと判定した点検項目

3 否と判定した点検項目の判定理由及び改善

否と判定した点検項目の判定理由及び改善について、自己点検表末尾のコメントに記載した。

8 項目

〈個別行事総括〉

- 1 評価の方法
 - (1) 評価者 個別行事の担当者
 - (2) 評価時期 主要学校行事が完了する都度
 - (3) 総括の内容 行事の概要・実施結果から問題点、要改善点、課題等を記載している。
 - (4) 総括の報告 担当者が関係会議・委員会に報告した。
- 2 総括を作成した個別行事
 - (1) 就職説明会
 - 1) 期日 平成31年4月18日
 - 2) 総括 末尾 平成 31 年度合同就職説明会総括
 - 3) 報告 5月職員会議
 - (2) オープンキャンパス
 - 1) 期日 令和元年7月27日
 - 2) 総括 末尾 2019 年度オープンキャンパス総括
 - 3) 報告 8月及び9月職員会議
 - (3) 防災訓練
 - 1) 期日 令和元年10月9日
 - 2) 総括 末尾 令和元年度防災訓練総括
 - 3) 報告 11 月職員会議
 - (4) 教育研修
 - 1) 期日 令和元年 10 月 19 日

- 2) 総括 末尾 2019 年度教育研修総括
- 3) 報告 教務会議、3月職員会議
- (5) 入学試験
- 1) 期日 推薦入学試験 令和元年11月20日
 - 一般入学試験(一次募集) 令和2年1月15日
 - 一般入学試験(二次募集) 令和2年3月3日
- 2) 総括 末尾 令和 2 年度推薦•一般入学試験総括
- 3) 報告 第7回入学試験委員会、第5回運営委員会

〈課題の解決〉

自己評価の評点が不十分である評価項目、自己点検の評点が否である点検項目、個別行事総括で問題点・課題とした事項は、学校評価委員会で重要な課題とそれ以外の課題に区分して、次のとおり、組織的に処理、対応した。

(1) 重要な課題

重要な課題ごとに、課題シートを起票する。課題シートには、課題解決の方法、日程、期限、担当者を明示する。日程、期限は、当該課題の解決に必要な諸機関での審議、申請等の手続きを勘案して設定する。

(2) 重要な課題以外の課題

重要な課題以外の課題を整理し、教職員に示す。

個別行事の総括結果は、令和2年度の行事企画に反映させる。

(3) 課題解決の検証

重要な課題の解決状況は、必要に応じて中間評価し、最終的に課題ごとに設定した期限到来時に 検証する。

重要な課題以外の課題の解決状況は、次に到来する自己評価、自己点検、個別行事総括で検証する。

頁目		評	評信	西分布			評価分		
中項目		価者	達	取組	不十	無回	達	取 組	7 +
	五項目	数	成	中	分	答	成	中	5
	☆•目的•目標								
(1) 教育	育理念・目的・目標の意義と周知					1			
1)	教育理念・目的・目標は、本校の教育上の特徴を示している	12	11	1			92%	8%	
2)	教育理念・目的・目標は学習の指針になっている	12	11	1			92%	8%	
l` / ==-	育目標の達成と評価 	1	•	1					
<u> </u>	教育目標は、具体的で達成可能なものである	12	11	1			92%	8%	
	設置母体、学校、学生のニーズに対応して見直している	12	9	3			75%	25%	
リキュラ									
l` <i>′</i> —	キュラム編成								
1)	教育理念・目的・目標にあった科目を設定している	9	8	1			89%	11%	
2)	指定規則、ガイドラインに合致した科目を設定している	9	8	1			89%	11%	
3)	科目以外に学校の特色を生かした行事を設定している	9	6	3			67%	33%	
4)	学習の速度や順序性を示した教育計画表を作成している	9	7	2			78%	22%	
5)	教育計画表に基づいて時間割が組まれている	9	7	2			78%	22%	
6)	科目を担当する教員(講師)は、専門性を踏まえて配置している	9	7	2			78%	22%	
7)	単位認定の考え方や方法を明示している	9	8	1			89%	11%	
(2) カリ	キュラム見直し		1						
1)	定期的に見直している	9	5	4			56%	44%	
業課程	₹								
(1) 授美	巻計画								
1)	授業科目の設定は、教育目標と一貫性をもったものである	9	8	1			89%	11%	
2)	授業内容は、他の授業内容との重複や整合性を考えて計画している	9	6	3			67%	33%	
3)	授業内容に合わせて授業形態を選択している	9	7	2			78%	22%	
4)	授業計画(科目の目標・授業内容・授業形態・評価方法)を明示している	9	7	2			78%	22%	
5)	授業準備のための時間が取れる体制を整えている	9	5	4			56%	44%	
(2) 授美	業 方法		1						
1)	授業計画通りに授業を行っている	9	8	1			89%	11%	
2)	単元ごとの指導計画・指導案を作成している	9	7	2			78%	22%	
(3) 授業	業評価								
1)	授業実施後に指導計画・指導案を見直している	9	5	4			56%	44%	
2)	授業科目終了後に授業計画を見直している	9	5	4			56%	44%	
3)	学生からの評価を踏まえて指導計画や指導案を見直している	9	6	3			67%	33%	
4)	授業計画を検討する場をもっている	9	8	1			89%	11%	
習指導									
l' ' —	加設の要件		-	-				1	
1)	実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している	9	7	2			78%	22%	
2)	実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している	9	7	2			78%	22%	
(2)実習	習指導体制					<u> </u>			
l` ′ —	実習計画は各看護学毎に作成している	9	8	1			89%	11%	
<u> </u>	実習指導者会議・実習連絡会議を定期的に開催している	9	8	1			89%	11%	
<u> </u>	習指導者と教員の協働体制			-		<u> </u>	-273	,5	
1)	学生の学びを保障するために臨地実習指導者と教員の役割を明確にして	9	7	2			78%	22%	
<u> </u>	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\								
l	実習指導者は学生の看護ケアに適切にアドバイスできている。	9	6	3			67%	-	
l —	実習指導者は看護実践の創意工夫に努める姿勢がある	9	7	2			78%	22%	
4)	実習指導者は実習計画をもとに、指導計画を立案・実施・評価している	9	3	6	1		33%	67%	1
5)	実習指導者と教員は、ケアを受ける対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、計画的に学生を指導している	9	8	1			89%	11%	
(4)臨州	生実習における安全対策					-			

大項目		評	評		(評価	数)	評価分)布(割	合)
中耳	頁目	価者	達	取	不	無	達	取	不
	評価項目	数数	成	組 中	十分	回答	成	組 中	十分
	1) 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている	9	7	2			78%	22%	
	2) 学生の事故発生時の対応について明示している	9	8	1			89%	11%	
	3) 臨地実習での感染防止の対策をとっている	9	8	1			89%	11%	
5 学校	・ 組織・運営								
(1)	組織運営計画								
	1) 学校運営の将来構想と整合性のある中・長期計画を立案している	3		3				100%	
	2) 学校運営の将来構想と整合性のある年間計画を立案している	3		3				100%	
	3) 学校運営の将来構想を検討する場をもっている	3	1	2			33%	67%	
(2)	組織体制						·		
	1) 運営しやすい組織構造である	12	7	5			58%	42%	
	2) 教員組織と事務組織は連携が取れている	12	4	8			33%	67%	
	3) 運営に必要な人数が配置されている	12	10	2			83%	17%	
(3)	職務分掌	12	10	۷			0370	1770	
(3)	1) 職務分掌に沿って役割を果たしている	12	7	5			58%	42%	
	2) 職務遂行状況に関わる情報を伝達、共有している	12	9	3			75%	25%	
(4)		12	9	3			75%	25%	
(4)	財務	Г				l l	1000/		
	1) 年度計画に基づいて適切に予算を執行している	5	5				100%		
(5)	2) 学校の運営に必要な経費を精査し、予算編成に反映している	5	5				100%		
(5)	教職員への支援			_1		1 .1		4	
	1) 教職員のキャリア形成の支援体制がある	12	10	2		1	91%	18%	
	教職員が働きやすい環境を整備している(時間外労働削減、年次休暇取 2) 得、ストレスケア)	12	10	2			83%	17%	
(6)	情報・文書管理					<u> </u>			
	1) 文書は、適切に管理・保管・廃棄されている	12	10	2			83%	17%	
	2) 内部情報・個人情報は、適切に管理・保管・廃棄されている	12	11	1			92%	8%	
	3) 学籍簿は、適切に記録し、保管されている	5	4	1			80%	20%	
(7)	入学生の確保								
	1) 教育理念・目的を踏まえた学生募集方針を定めている	4	4				100%		
	2) 入学希望者増加に向けての学生募集活動を行っている	4	3	1			75%	25%	
	3) 志願者・合格者・入学者の状況を分析し、学生募集活動に活かしている	4	3	1			75%	25%	
(8)	自己点検·評価	•					, 0, 0	2070	
(0)	1) 自己評価・自己点検のシステムが作られ、機能している	12	9	3			75%	25%	
	2) 自己評価項目を見直している	12	9	3			75%		
(9)	広報	12	5				7370	2370	
(3)	1) 学校の関係者及び地域に対して、学校の情報を提供している	12	6	6			50%	50%	
/10	17	12	U	U			3070	3070	
(10	1) 学校運営全般について、関係者の意見を聴取している	3	1	2			33%	67%	
/11	1) 子文屋呂主放について、関係有の息兄を聡成している 意思決定	3	1	2			33/0	07/0	
(1)		12	10	2		1 1	020/	170/	
	1) 学校の意思決定に関する諸会議・諸委員会が適切に機能している	12	10	2			83%	17%	
a *%-*	2) 学校運営全般について、教職員の意見が反映されている	12	8	4			67%	33%	
6 教育	117								
(1)	施設設備	l				l I			
	1) 指定規則・ガイドラインに定められた教室などの施設設備をもっている	12	11	1			92%	8%	
	2) 指定規則・ガイドラインに定められた機械器具、模型及び図書をもっている	12	11	1			92%	8%	
	教室などの施設設備や機械器具、模型及び図書は計画的に点検している。	12	12				100%		
	′ いら	14	12				100/0		
	教室などの施設設備や機械器具、模型及び図書は学生が自由に活用で もる	12	11	1			92%	8%	
(2)	実習施設	1				<u>ı </u>			
	1) 実習施設の状況を把握し、実習配置計画を立てている	3	3				100%		
l I	/ 27日2000 / 1/2001日本の/ 27日日日日日日日日 日 6 元 7 7 7 3	3	J				100/0		

大項目			評	評価	価分布			評価分	市(割	
中項			価者	達 成	取組	不十	無回	達 成	取 組	不十
	評価項目		数	JJX	中	分	答)3X	中	分
		習施設は指定規則・ガイドラインに定められた施設設備、実習指導体制 もっている	9	8	1			89%	11%	
(3)	危機管理	理(防災、事故、情報管理)								
	1) 防	災に対する体制を整備している	12	9	2	1		75%	17%	8%
	2) 学[内及び実習における事故発生時の体制を整備している	12	9	3			75%	25%	
	3) 個,	人情報保護のための対策を整備している	12	8	4		1	73%	36%	
7 学修	·進路									
(1)	卒業•進	進路								
	1) 学	生状況に応じた国家試験対策を行っている	9	8	1			89%	11%	
	2) 卒	業後の進路選択の支援体制がある	9	9				100%		
	3) 東河	濃地域への就業率を高めるため、関連施設の情報を共有している	9	8	1			89%	11%	
(2)	中途退	学								
	1) 学	習困難者などに対する支援体制がある	9	6	3			67%	33%	
8 学生	生活への	の支援								
(1)	学習·生	E活支援								
	1) 学	生、クラスを支援する体制がある	12	11	1			92%	8%	
	2) 学	生が自由に学習、交流できる場所がある	12	10	2			83%	17%	
	3) 学	生の健康管理を支援する体制がある	12	11	1			92%	8%	
	4) 学	生相談窓口としてのカウンセラーを配置している	12	12				100%		ĺ
(2)	自主活動	動								
	1) 課	外活動、ボランティアの支援体制がある	12	7	5			58%	42%	
9 地域	との連携	基								
(1)	地域連掛	携								
	1) 教	育活動を通して地域社会への貢献を積極的に行なっている	12	2	8	1		17%	67%	8%
	2) 地址	域の諸資源を学習教育活動に取り入れている	12	6	6			50%	50%	

達成評価 達成評価は、概ね次の達成状況を判定する。 達成 (目標を達成している、現在の達成度を維持する) 取組中 (課題の解決に取り組んでいる、達成のレベルに到達していない) 不充分 (取り組みが不十分、未着手) コメント欄 自由記述。達成評価を不十分又は項目の適否を否としたときは、コメント欄に評価の理由を記述する。

				1	
大	中	評	達	項	
項	項	価	成	目	コメント
		項	評	適	
H	н	目	価	否	
3	1	2	取組中	適	自分の教科で重複があった。
3	3	1	取組中	適	毎回はできていない。
3	3	3	取組中	適	学生のコメントが少なく、回収率も低い。学生評価の十分な把握ができていない。
4	3	4	取組中	適	統合実習はどうかと考える(一部)。
4	4	3	達成	適	課題のインフルエンザ対応は、主たる施設と基本的考え方を確認した。
5	1	1	取組中	適	今回、学校組織の編成と閉校案が提示された。
5	1	3	取組中	適	ほぼほぼ方向性は出ている。
5	2	1	取組中	適	土岐市と広域の2重構造がある。
5	2	2	取組中	適	事務職(正規)1名→2名にと言われている。
5	3	1	取組中	適	係長の仕事が多くなり、心配であるが手伝えないもどかしさがある。
5	3	1	取組中	適	事務との分担で迷うことがあった。
5	5	1	取組中	否	現在の業務で手一杯なようで、研修とかムリそう。
5	6	1	取組中	適	電子文書は今年度着手、管理・保管等を開始した。
5	9	1	取組中	適	地域のボランティア活動に参加し、もっと地域に情報提供をする。
6	1	4	不十分	否	机・ロッカーなど自分が使うものだから「ちゃんとするよう」教えたいと思う。
6	3	1	取組中	適	アクションカードが作成できていない。飛散防止フィルムの検討を。
6	3	2	取組中	否	統合実習中の学生のインシデントがレポートなしになった?
7	1	1	取組中	適	三年担任にまかせっぱなしで申し訳ない。
7	2	1	達成	適	基礎学力に低下傾向があり、教員側の負担が増している。
8	2	1	取組中	否	時間的に無理と思われる。
9	1	1	不十分	適	3市取組イベントなどへの参加など、学校としてできることを模索すると良い
9	1	1	不十分	適	学生が働いているため、教科外の活動は難しいと考える。

看護師養成所(2年課程) 自己点検表

養成施設名:東濃看護専門学校 (昼間定時制・修業年数3年)

T	点検項目			判定		確認書類
学生に	関する事項			900000000000000000000000000000000000000		
(1)	入所資格を有しない者を入所させていないか。		適	否	該当なし	•学則
	〇 ①又は②に該当する者か。(指定規則第4条第2項第1号)					•募集要項
	①免許を受けた後3年以上業務に従事している准看護師 ②高等学校若しくは中等教育学校を卒	業している准看護師	ı 币	-		•各種規程
(2)	入学資格の確認は、以下の書類のうちいずれかを提出させ確実に行っているか。(指導要領第4-1(1)イ(-		適	否	該当なし	
(2)	〇准看護師免許証の写し	1//		H	12.20) <u>1.79 9 12 11 07 07 0</u>

	〇准看護師として3年以上業務に従事した旨の就業証明書(免許取得後3年以上就業した准看護師)	alle		700000000000000000000000000000000000000		
	〇高等学校又は中等教育学校の卒業証明書又は卒業見込証明書(高等学校又は中等教育学校を卒業 					
(3)	入学選考は、提出された書類、選考のための学力検査の成績等に基づき、適正に行っているか。(指導 	要領第4-2(1)) 	適	否	該当なし	
(4)	看護師としての能力や適性にかかわりのない事項(体型、年齢、家族関係、色覚、医療機関等への勤務の	の可否等)に	適	否	該当なし	
4014014001400140014001400140014001400	よって入学制限をしていないか。(指導要領第4-2(2))		2004 2000 200 200 200 200 200 200 200 20			
(5)	他の分野で働く社会人に対して、その経験に配慮した入試を設けているか。(指導要領第4-2(3))		適	否	該当なし	
(6)	家族調書等)を提出させていないか。(指導要領第4-2(4))		適	否	該当なし	
(7)	学生の卒業は、学生の成績を評価して認めているか。(指導要領第4-3(1))		適	否	該当なし	
(8)			適	否	該当なし	
(9)		 考が、特定の医療	適	否	該当なし	
	機関に勤務しない又は勤務していないことを理由に不利益な取り扱いをしていないか。			***************************************		
	(指定規則第4条第2項第12号 指導要領第4-4(1))			***************************************		
(10)			適	否	該当なし	
(10)	(指導要領第4-4(2))	4611260 000		H	IX 1.60	
(44)		こっせい苦していてん	·*		=+ \1/ 4\1	
(11))に指導しているか。	適	否	該当なし	
 	(指導要領第4-4(3)) 		<u> </u>	***************************************		
施設設	備等に関する事項 					
(1)	指定規則等で備えることとなっている部屋があるか。(①~③の全てを満たすこと)		適	否	該当なし	・申請時の平面図
	①普通教室(同時に行う授業の数に応じ、必要な数が専用であること。(指定規則第4条第2項第6号)		適	否	該当なし	•校舎各室一覧表
	②実習室及び在宅看護実習室は専用であるか。(指定規則第4条第2項第7号)		適	否	該当なし	
	(以下の全てを満たすこと。ただし、実習室と在宅看護実習室とは兼用可)			***************************************		
	ア 専門領域の校内実習を行うのに必要な専用の実習室を有すること。(指導要領第7-5(1))		適	否	該当なし	
•••••••••••	イ 学生4人に1ベッド以上確保し、1ベッド当たり11㎡以上であること。(指導要領第7-5(2))		適	否	該当なし	
	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー		適	否	該当なし	
			適	否	該当なし	
•••••••••••••••		 6導要領第7-5(1))	適	否	該当なし	
	③図書室はあるか。(指定規則第4条第1項第7号、第2項第7号)		適	否	該当なし	
(2)	以下の教育上必要な機械器具、模型及び図書を有するか。(指導要領第7-7(1)、別表9)		適	否	該当なし	•備品類目録
(2)	は「の教育工必要な「成似研究、快生及び固言と行うるか。(指导要限第7 八八、別表の)	数量			該当なし	
	ペッド	双里		***************************************		•図書目録
		**************************************	\ *	—	=+ \1/ 4\1	
		学生4人に1	適	否	該当なし	
	小児用ベッド	2	適	否	該当なし	
	新生児用ベッド	2	適	否	該当なし	
	保育器	1	適	否	該当なし	
	ウェム	▼ ♦ ' ! ♦ Ж Г	\ <u>-</u>		該当なし	
	床頭台	ベッド数	適	否	= 1	
	オーバーベッドテーブル	ベッド数	適	否	該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー)		適適	否	該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架	ベッド数 1 1	適適適	否否否	該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式		適適	否	該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形	ベッド数 1 1 2	適適適適	否否否	該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形	ベッド数 1 1	適適適	否否否	該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形	ベッド数 1 1 2	適適適適	否否否	該当なし該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形	ベッド数 1 1 2	適適適適適	否 否 否 否	該当なし 該当なし 該当なし 該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル	ベッド数 1 1 2	適適適適適適適	否 否 否 否	該当なし 該当なし 該当なし 該当なし 該当なし	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル 静脈採血注射モデル	ベッド数 1 1 2	適適適適適適適	否 否 否 否 否 否	該当なし 該当なし 該当なし は 当なし し し し し し し し し し し し し し し し し し し	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル 静脈採血注射モデル 気管内挿管訓練モデル	ベッド数 1 1 2 学生10人に1 1 1	適 適 適 適 適 適 適	否 否 否 否 否 否	該当 該当 該当 該当 当 当 な は し し し し し し し し し し し し し	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル 静脈採血注射モデル 気管内挿管訓練モデル 救急蘇生人形	ベッド数 1 1 2 学生10人に1 1 1	適 適 適 適 適 適 適 適	否 否 否 否 否 否 否	該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル 静脈採血注射モデル 気管内挿管訓練モデル 救急蘇生人形 経管栄養訓練モデル	ベッド数 1 1 2 学生10人に1 1 1	適 適 適 適 適 適 適 適	否 否 否 否 否 否 否 否 否	該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該 該	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル 静脈採血注射モデル 気管内挿管訓練モデル 救急蘇生人形 経管栄養訓練モデル	ベッド数 1 1 2 学生10人に1 1 1 1 1	適 適 適 適 適 適 適 適 適	否 否 否 否 否 否 否 否	is i	
	オーバーベッドテーブル 患者用移送車(ストレッチャー) 担架 布団一式 実習用モデル人形 看護実習モデル人形 注射訓練モデル 静脈採血注射モデル 気管内挿管訓練モデル 救急蘇生人形 経管栄養訓練モデル 吸引訓練モデル	ベッド数 1 1 2 学生10人に1 1 1 1 1 2	適 適 適 適 適 適 適 適 適	否 否 否 否 否 否 否 否 否	is i	

	1	 	判定		確認
ファントーム	1	適	否	該当なし	
看護用具等			**************************************		
洗髪車	1	道道	否	該当なし	
清拭車	1	道道	否	該当なし	
	学生4人に1	·	否	該当なし	
	────────────────────────────────────	- 	否	該当なし	
	適当数	道道	否	該当なし	
	1		否	該当なし	
				該当なし	
処置用具等 					
診察用具一式 	1	╽ │ 適	否	該当なし	
計測器一式 	1	適	否	該当なし	
救急処置用器材一式(人工呼吸器含む。)	1	適	否	該当なし	
注射用具一式(各種)	適当数	適	否	該当なし	
経管栄養用具一式	1	適	否	該当なし	
浣腸用具一式(各種)	適当数] 	否	該当なし	
	適当数	- 	否	該当なし	
	ベッド数		- 否	該当なし	
	各々1		否	該当なし	
吸入器 	1	適	否	該当なし	
吸引装置又は吸引器 	1	適	否	該当なし	
心電計 	1	適	否	該当なし	
輸液ポンプ 	1	適	否	該当なし	
煮沸消毒器	1	適	否	該当なし	
手術用手洗用具一式(各種)	適当数	適	否	該当なし	
小手術用機械器具一式	1	道道	否	該当なし	
機能訓練用具		1	00100		
	適当数		否	該当なし	
	—————————————————————————————————————	道	否	該当なし	
自助具(各種)				該当なし	
	旭当奴		-	該当なし	
在宅看護用具 		_		-1	
手すり付き家庭用風呂 	1	適	否	該当なし	
簡易浴槽 ————————————————————————————————————		適	否	該当なし	
台所設備一式 ————————————————————————————————————	1	適	否	該当なし	
車椅子用トイレ	1	適	否	該当なし	
低ベット(家庭用)	1	適	否	該当なし	
リネン類(各種)	適当数	i	否	該当なし	
模型	各々1	- 	否	該当なし	
			- 否	該当なし	
		- - -	- 否	該当なし	
<u> </u>			30000000000000000000000000000000000000		
		-	否	該当なし	
頭骨分解 		道	否	該当なし	
心臓解剖 		適	否	該当なし	
呼吸器		適	否	該当なし	
消化器		適	否	該当なし	
脳及び神経系		適	否	該当なし	
筋肉		i 適	否	該当なし	
皮膚裁断		遺	否	該当なし	
目、耳の構造		道	否	該当なし	
 歯の構造			否	該当なし	
- Bの特色 			***************************************		
		-	否	該当なし	
腎臓及び泌尿器系 		適	否	該当なし	
骨盤径線		適	否	該当なし	
妊娠子宮 		適	否	該当なし	
胎児発育順序		適	否	該当なし	
受胎原理		道道	否	該当なし	
·	_	- 1			

	点検項目			判定	1	確認書類
	視聴覚教材					
	VTR装置一式	1	適	否	該当なし	
	ビデオカメラ	適当数	適	否	該当なし	
	教材用ビデオテープ、DVD等	適当数	適	否	該当なし	
	カメラ	適当数	適	否	該当なし	
	オーバーヘッドプロジェクター	適当数	適	否	該当なし	
	カセットテープレコーダー	適当数	適	否	該当なし	
	ワイヤレスマイク	適当数	適	否	該当なし	
	その他					
	パーソナルコンピューター	適当数	適	否	該当なし	
	複写機	1	適	否	該当なし	
	印刷機	1	適	否	該当なし	
	図書					
		1000冊以上	適	否	該当なし	
		1500冊以上	道	否	該当なし	
		20種類以上	適	否	該当なし	
 備考	プログログログ		<u> </u>	П	±√⊐.90	
川市行	スエー・吸る及び ・				***************************************	
※ 译 业 4	また、祝聴見叙材は、向極の機能を有する他の機器で代替することができる。 数とは、演習の方法等に応じた必要数があるかどうかで判断すること。					
		ナンフ	適	否	■表 业 ナ >1	
(3)	看護師養成所等と助産師養成所を併設し、同一の機械器具等を共用する場合、教育を異なった時間帯に 行っているか(特道要領第7-7(1))	-あい・し	<u>適</u> 	台	該当なし	
(4)	行っているか(指導要領第7-7(1)) 		\	T	=+ 1/ +>!	
(4)	機械器具、模型及び図書は、学生定員数に応じ、適宜補充し更新しているか。(指導要領第7-7(2))	0(1)	適	否	該当なし	
(5)	同時に授業を行う学生の数は原則として40人以下であるか。(指定規則第4条第2項第5号、指導要領第7	-2(1))	適	否	該当なし	
	※以下の場合においてはこの限りでない。					
	ア)看護師養成所の基礎分野であって、教育効果を十分に挙げられる場合。					
(6)	2年課程(通信制)とそれ以外の課程とが同一の教室を共用とする場合、学生の自己学習のための教室か	が他に	適	否	該当なし	
	設けられているか。(指導要領第7-2(2)) 					
(7)	看護師養成所等と助産師養成所を併設し、同一の普通教室を共用とする場合、教育を異なった時間帯に		適	否	該当なし	
	おいて行い、また、学生の自己学習のための教室が他に設けられているか。(指導要領第7-2(2))					
(8)	図書室の面積は、学生の図書閲覧に必要な閲覧机の配置及び図書の格納のために十分な広さを有する	らか。 -	適	否	該当なし	
***************************************	(指導要領第7−2(3)) ————————————————————————————————————					
(9)	2以上の養成所若しくは課程を併設し、実習室を共有する場合、以下の条件を満たしているか。(指導要領	頁第7-2(5))	適	否	該当なし	
	〇設備、面積、使用に当たっての時間的制約等からみて教育効果に支障が生じていないこと。					
	○学生の自己学習のための場の確保について、運用上、十分に配慮されていること。 		попостоятом стоетом постоятом постоя			
(10)	教育上支障があるにも関わらず、実習室と在宅看護実習室とを兼用していないか。(指導要領第7-2(4))		適	否	該当なし	
(11)	以下、設置が望ましい施設について設置しているか(指導要領第7-2(7))		適	否	該当なし	
	O×をつける					
	視聴覚教室 演習室 情報処理室 学校長室 教員室 事務室 応接室 研究室	<u> </u>				
	教材室 面接室 套議室 休養室 印刷室 更衣室 倉庫 講堂					
(12)	臨床場面を擬似的に体験できるような用具や環境を整備しているか。(指導要領第7-2(8))		適	否	該当なし	
(13)	2以上の養成所又は課程を併設する場合、共用とする施設設備を機能的に配置し、かつ養成所又は課程		適	否	該当なし	
	まりを持たせているか。(指導要領第7-2(9))					
(14)	総定員を考慮し教育環境を整備しているか。(指導要領第7-2(9))		適	否	該当なし	
教員等	こ関する事項					
(1)	教員および専任教員の数は不足していないか。(①、②を満たしていること)(指定規則第4条第2項第4号))	適	否	該当なし	•教員一覧
	①教員は指定規則別表第3の2に掲げる各教育内容を教授するのに適当な教員を有し、かつ、そのうち	7人以上は	適	否	該当なし	•履歴書
	看護師の資格を有する専任教員としている。(指定規則第4条第2項第4号)					・免許証又は
		3))	適	否	該当なし	資格証等の写し
(2)	専任教員は以下のいずれかの要件に該当する者であるか。(指導要領第5-1(3))		適	否	該当なし	(原本確認)
	〇保健師、助産師又は看護師として指定規則別表第3の専門分野の教育内容(以下「専門領域」という。	,)のうちの1つの	適	否	該当なし	
	業務に3年以上従事した者で、大学において教育の本質・目標、心身の発達と学習の過程、教育の方法					
	教科教育法に関する科目のうちから、合計4単位以上を履修して卒業したもの又は大学院において教育					
	The state of the s		1			

	点検項目		判定		確認書類
	〇以下のいずれの要件も満たす者。	適	否	該当なし	
	ア 保健師、助産師又は看護師として5年以上業務に従事した者。		0000		
	イ 専任教員として必要な研修を修了した者又は看護師の教育に関し、これと同等以上の学識経験を有すると認め		000000000000000000000000000000000000000		
	られる者。		00000000000000000000000000000000000000		
(3)	同一の教員が、他の養成所、課程で専任教員になっていないか。(指導要領第5-1(6))	適	否	該当なし	
(4)	専任教員のうち1人は教務に関する主任者であるか。(指定規則第4条第2項第4号)	適	否	該当なし	
	また、以下のいずれかに該当しているか。(指導要領第5-1(14))		***************************************		
	①専任教員の経験を3年以上有する者		000000000000000000000000000000000000000		
	②厚生労働省が認定した教務主任養成講習会修了者		00000000000000000000000000000000000000		
	③旧厚生労働省看護研修研究センターの幹部看護教員養成課程修了者		000000000000000000000000000000000000000		
	④上記①~③と同等以上の学識経験を有すると認められる者		000000000000000000000000000000000000000		
(5)	同一の専任教員が、他の養成所、課程で教務主任になっていないか。(指導要領第5-1(11))	適	否	該当なし	
(6)	専任教員は専門領域ごとに配置されているか。(指導要領第5-1(7))	適	否	該当なし	
(7)	専任教員の担当する授業時間数は、過重にならないよう1人1週間当たり15時間を標準としているか。(指導要領第5−1(10))	適	否	該当なし	
(8)	専任教員は専門領域における教授方法の研修や、看護実践現場での研修を受けるなどにより、自己研鑽しているか。	適	否	該当なし	
	(指導要領第5-1(12))		001000000000000000000000000000000000000		
(9)	専任教員の採用に当たっては、看護師等の業務から5年以上離れていないことを確認しているか。(指導要領第5-1(5))	適	否	該当なし	
(10)	養成所の長が兼任である場合又は2以上の課程を併設する場合には、長を補佐する専任の職員を配置しているか。	適	否	該当なし	
	(指導要領第5-2(1))		000000000000000000000000000000000000000		
(11)	養成所の長を補佐する専任の職員を置く場合、長又は長を補佐する専任の職員のいずれかは看護職員であるか。	適	否	該当なし	
	(指導要領第5-2(2))		000000000000000000000000000000000000000		
(12)	専任教員としての要件を満たし、かつ臨地実習全体の計画の作成、実習施設との調整等を行う者(以下「実習調整者」	適	否	該当なし	
	という。)が定められているか。(指導要領第5-3(1)(2))		VALUE DE LA CONTRACTION DE LA		
(13)	実習指導教員(実習施設で学生の指導に当たる看護職員)は施設数を踏まえ適当数確保しているか。(指導要領第5-4)	適	否	該当なし	
(14)	実習指導教員は、保健師、助産師または看護師であるか。(指導要領第5-4(2))	適	否	該当なし	
(15)	各科目を教授する教員は、当該科目について相当の学識経験を有しているか。(指導要領第5-5(1))	適	否	該当なし	
	〇 基礎分野における授業は、大学において当該分野を担当している者であるか。(指導要領第5-5(3))	適	否	該当なし	
	○ 各科目を担当する教員は、経歴、専門分野等を十分に考慮して選任しているか。(指導要領第5-5(2))	適	否	該当なし	
(16)	学生の生活相談、カウンセリング等を行う者が定められているか。(指導要領第5-1(13))	適	否	該当なし	

「手÷サケ・	* 	の左押で	1)/亡n++u= -^	ごる /= #++	- <u>_</u> -	点検項目 -						Оппинания	判定		確認書類
***************************************			2)(定時制及び												
(1)		内容は以	以下の留意点の 2年課程(通f		含んでし	いるか。(指導要領別表3-2)					通	<u> </u>	否	該当な	
tris reter who retro	2 年課程 2 年課程 (定時制)	-	通信学習	ID (P1)		m						***************************************		***************************************	
教育内容	単位数	単位数	備考			留意点						000000000000000000000000000000000000000		***************************************	
基 基盤 大間と生活・社 会の理解		1 4 7 3 3	単位の授業科目を 5 時間の学修に相当する内容にすること。また、1 単位 ごとに1 レポート、 単位認定試験等を 果すことを標準と			「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる科目を設定し、併せて、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容とする。 人間と社会を幅広く理解出来る内容とし、家族論、人間関係論、カウンセリング理論と技法等を含む						ово населения в поставления в			
als ©L			して、達成度を確認 すること。			ものとする。 国際化及び情報化へ対応しうる能力を養う内容を含むものとする。 職務の特性に鑑み、人権の重要性について十分理解し、人権意識の普及・高揚を図る内容を含むことが望ましい。						поставления постав			
小計)		単位の授業科目を	/	/	人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に						***************************************		***************************************	
門 能 疾病の成り立ち 疾病のの促進 健康支援と 健康動度		10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	15 時間の学修に相当するまた、1 単位 によっまた、1 世位 には は は は は は は は は また に 1 世位 に は は は また とに 2 世位 認定 を を を とに 2 定成度を確認 して 3 こと。			関する観察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等を臨床で活用可能なものとして学ぶ内容とする。 演習を強化する内容とする。 人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と 基礎的な能力を養う内容とし、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種									
沐陴刑反	4					位に関する基本概念、関係制度、関係する報程の役割の理解等を含むものとする。						000000000000000000000000000000000000000		-	
小 計 基礎看護学	14		単位の授業科目を	/	,	専門分野Ⅰでは、各看護学及び在宅看護論の基						посмосторительного		-	
		4 2 3 3 8 1	15時間の学修に相当する内容に1単位に10日本では1単位では10日本			報となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶため、 看護学概論、看護技術、臨床看護総論を含む内容とし、演習を強化する内容とする。 コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とする。 事例等に対して、看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ内容とする。 看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養い、問題解決能力を強化する内容とする。									
臨地実習		細	上事例演習	病院見等		, wo						***************************************		***************************************	
				及び面接								***************************************		-	
基礎看護学	2	単位数	備 考 3事例程度		備 考 病院見学 及び面接 授業3日	2 年課程(通信制)については、紙上事例演習、 病院等見学実習、面接授業で代える。						постинения			
小計	8	7	3事例程度	1								***************************************		***************************************	
専 成人看護学 門 老年看護学 分 小児看護学 母性看護学 II 精神看護学	3 3 3 3	3 3 3	1 単位 は は は は は は は は は は は は は は は は は は			講義、演習及び実習を効果的に組み合わせ、看 護実践能力の向上を図る内容とする。 健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護 の方法を学ぶ内容とする。 成長発達段階を深く理解し、様々な健康状態に ある人々及び多様な場で看護を必要とする 人々に対する看護の方法を学ぶ内容とする。	合分野	在宅看護論	3		単位の授業科 を45時間の内内 に相当ことに関するで、単一 をといるでは、単単しては関うでは、単単しては関うでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	多に1ポ試を成			在宅看護論では地域で生活しなが 養する人々とその家族を理解し地 の看護の基礎を学ぶ内容とする。 地域で提供する看護を理解し、基 技術を身につけ、他職種と協働する の看護の役割を理解する内容とす 地域での終末期看護に関する内容 むものとする。 チーム医療及び他職種との協働の
臨地実習			上事例演習	病院見き 及び面打	于大百	知識・技術を看護実践の場面に適用し、看護の 理論と実践を結びつけて理解できる能力を養 う実習とする。		Fitt o th A I do			٤.				看護師としてのメンバーシップ及 ーダーシップを理解する内容とす 看護をマネジメントできる基礎的 を養う内容とする。
成人看護学		単位数	備考	単位数	備考	チームの一員としての役割を学ぶ実習とする。 保健・医療・福祉との連携、協働を通して、看 護を実践する実習とする。		看護の統合と実 践	4	4					医療安全の基礎的知識を含む内容 る。 災害直後から支援できる看護の基
老年看護学 小児看護学	2	1	3 事例程度		Line de meior	多様な看護実践の場 (病院、施設等) で実習す る。							/		知識について理解する内容とする 国際社会において、広い視野に基
母性看護学 精神看護学	2	1	3 事例程度	1 4	学実習 2 日 及び面接授	2 年課程 (通信制) については、紙上事例演習、 病院等見学実習、面接授業で代える。						\perp	/		看護師として諸外国との協力を表 内容とする。
	2	1	3 事例程度	1 3	業 3 日										看護技術の総合的な評価を行う する。
	2	' '	3事例程度	'				臨地実習				1	病院見等	全宝型	
a =-/										紙_	上事例演習		及び面接		
小 計 臨地実習	25	20	15事例程度	5	### PP			在宅看護	2	単位数	備考	単	位数	備考	訪問看護に加え、地域における多
		紙	上事例演習	病院見き 及び面打				論	2		1 3事例程度			教育内容ごと	で実習を行うことが望ましい。 通信制を除く2年課程では、専門
在宅看護	2	単位数		単位数	備考	訪問看護に加え、地域における多様な場で実習		と実践			1 3事例程度	-	1	見学実	の実習を踏まえ、実務に即した実数の患者を受け持つ実習、一勤務
論 看護の統合 と実践	2		1 3事例程度		谷っと	を行うことが望ましい。 通信制を除く2年課程では、専門分野での実習 を踏まえ、実務に即した実習、複数の患者を受								び面接	した実習を行う。また、夜間の実 うことが望ましい。 2年課程(通信制)については、
					見 字 美習2日及	け持つ実習、一勤務帯を通した実習を行う。また、夜間の実習を行うことが望ましい。									例演習、病院等見学実習、面接授える。
					ひ 国 接	2 年課程 (通信制) については、紙上事例演習、 病院等見学実習、面接授業で代える。		/\ ä+	11		9 6 事例程度		2		
小計	11		9 6事例程度	2	2			総計	65		65	5			2, 180 時間以上の講義・演習等を行
総計	65		65			2.180 時間以上の講義·演習等を行うものとす る。		ING DI	03		00				のとする。
	1	1													
教育に関	する事」	——— 項										***************************************			
	教育課	程の編月	成に当たっては	、65単位	以上で	2180時間以上の講義、実習等を行っ	ってし	いるか。(指導要	領第6-	-2(3))	·····································	5	否	該当な	ー · iし ·講義録
(2)	〇実際	祭の授業	時間が学則で	定める時	持間より	少なくないか。					·····································	5	否	該当な	ー · · ・出席簿
(2)		では多い	 こついては15時	持間から30	0時間、	実験、実習及び実技については30時	寺間が	から45時間の範	井	G0000000000000000000000000000000000000	·····································	5	否	該当な	 :し •出勤簿
	講義及	の換日い													
(3)			∖。(指導要領6-	-3(1)ア(ア)))							***************************************			▶時間割
(3)	で定めて	ているか				 るか。(指導要領第6−3(1) ア (イ))						<u> </u>	否	該当な	
(3)	で定めて臨地実	といるか	ヽては、1単位を	- 45時間と	としてい	るか。(指導要領第6-3(1)ア(イ)) 間をもって計算しているか。(指導要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	系6−3(1)ア(ウ))			道 道		否		・年間教育計画
(3) (4) (5)	で定める 臨地実施 時間数に	ているか 習につい は、実際	いては、1単位を 発に講義、実習	至45時間と 等が行わ	としてい							<u> </u>		該当な該当な	・年間教育計画

	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	_ <u></u>		=_L .1. /	(f) 10 or 4 m
(8)	単位の認定に当たっては、講義、実習等を必要な時間数以上受けていることを確認しているか。(指導要領第6-3(2)ア) 	適	否	該当なし	•実習要綱
	単位の認定に当たっては、当該科目の内容を修得していることを確認しているか。(指導要領第6-3(2)ア)	適	否	該当なし	•実習指導要綱
(9)	他の学校等における、既履修科目の認定は適切か。(指定規則別表3の2、指導要領第6-3(2)イ)	適	否	該当なし	
	〇既修得単位の認定は、本人の申請に基づき個々の既修の学習内容を評価しているか。	適	否	該当なし	
	〇認定は、総取得単位数の1/2を超えない範囲であるか。	適	否	該当なし	
(10)	臨地実習は、実践活動の場において行う実習のみとしているか。(指導要領第6-4(3))	適	否	該当なし	
(11)		適	否	該当なし	
	(指導要領第6-4(3))				
	臨地実習は原則として昼間行っているか。(指導要領第6-4(4))		否	該当なし	
	※ 看護の統合と実践においてはこの限りではない。)EE	Н	N J & C	
		•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••		=+ \1/ 4~1	
	同一科目の臨地実習が2施設以上にわたる場合は、各学生の実習内容に差が生じないよう、教育計画を配慮しているか。	適	否	該当なし	
	(指導要領第6-4(5)) 				
000000000000000000000000000000000000000	する事項	······································		=1 \1/2 1	.
	承認を受けていない実習施設を利用していないか。(施行令第13条第1項)		否		- 実習要綱
	①基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学及び看護の統合と実践の実習を行う	適	否	該当なし	·実習施設一覧
	病院を確保しているか。(指導要領第8-5-(1))	·÷		=+ \1/ 4~1	・実習施設概要
	②在宅看護論の実習は病院、診療所、訪問看護ステーションの他、地域包括支援センター等の実習施設を確保 しているか。	適	否	該当なし	•実習指導要綱
/ <u>^`</u>	(指導要領第8-5-(1)) 	\ 1	7	表外化	
	実習施設は、以下の要件を満たしているか。	適 ————————————————————————————————————	否不	該当なし	
	①主たる実習施設(基礎看護学、成人看護学の実習を行う施設)(指導要領第8-5-(2))	適 	否	該当なし	
	ア 入院患者3人に対し1人以上の看護職員が配置されていること。ただし、看護職員の半数以上が看護師であること。	適 	否不	該当なし	
	イ 看護組織が次のいずれにも該当すること。	道 ————————————————————————————————————	否不	該当なし	
***************************************	(ア)組織の中で看護部門が独立して位置づけられていること。 (イ) 看護部間 に ての古針が明確でちること		否不	該当なし	
	(イ) 看護部門としての方針が明確であること。	道 ————————————————————————————————————	否不	該当なし	
	(ウ)看護部門の各職階及び職種の業務分担が明確であること。	適	否	該当なし	
	(エ)看護師の院内教育、学生の実習指導を調整する責任者が明記されていること。 - ウ 男者個もの看護計画な言葉は、「ままましまるため、看護某業が使用」やまいた言葉は、佐ばされ、常味活用され語	道 ————————————————————————————————————	否	該当なし	
	ウ 患者個々の看護計画を立案する上で基本とするため、看護基準が使用しやすいよう配慮し作成され、常時活用され評価 見直されていること。	適	否	該当なし	
		' *	不	=± \\ +\\	
	エ 看護を提供する場合に必要な看護行為別の看護手順が作成され、常時活用され、評価され見直されていること。	道 ————————————————————————————————————	否	該当なし	
***************************************	オ 看護に関する諸記録が次のとおり適正に行われていること。	適	否	該当なし	
	(ア) 看護記録が正確に作成されていること。 	道 ————————————————————————————————————	否	該当なし	
	(イ) 各患者に対する医療の内容が正確に、かつ確実に記録されていること。 (カ) ままのたるに関するようでは、スタが行われ、記録が正確に作用されていること。	適	否	該当なし	
	(ウ)患者のケアに関するカンファレンスが行われ、記録が正確に作成されていること。 		否	該当なし	
	カ 実習指導者が2人以上配置されていること。ただし、診療所での実習にあたっては、学生の指導を担当できる適当な 看護師を実習指導者とみなすことができる。	適	否	該当なし	
	を実首指導者とみなりことができる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	適	否	該当なし	
	②主たる実習施設以外の実習施設(指導要領第8-5-(3))		否	該当なし	
	● エたものと記述の作りのとは、10年度は300 で (6)// 	 適	否	該当なし	
	他の要件については(2)ーイからキまでと同様とすること。	適	- - 否	該当なし	
	③訪問看護ステーション実習について(指導要領第8-5-(5))	 適	否	該当なし	
	<u> </u>	適	否	該当なし	
		適	否	該当なし	
(3)	実習施設は、原則として養成所が所在する都道府県内にあるか。(指導要領第8-2-(3))	 	否	該当なし	
	実習施設には、実習生の更衣室及び休憩室が準備されているとともに、討議室が設けられているか。(指導要領第8-2(1))	 	否	該当なし	
	実習施設には、実習に必要な看護用具が整備され、充実しているか。((指導要領第8-2-(2))	適	否	該当なし	
	実習病院が同時に受け入れる学生数は、看護単位ごとに10名を限度とし、多数の養成所が実習を行う場合には、全体の	適	否	該当なし	
	実習計画の調整を行っているか。(指導要領第8-2-(4))		_		
	病院以外の実習の単位数は、在宅看護論の実習を含め指定規則に定める単位数の1割から3割程度の間で定めること。	適	否	該当なし	
	(指導要領第8-5-(4))				
(7)	実習指導者は、担当する領域について相当の学識経験を有し、かつ、原則として必要な研修(実習指導者講習会)を受けた。	適	否	該当なし	
	あるか。(指導要領第8-1)				
変更承認	及び届出その他に関する事項				
	変更承認もしくは届出書の提出が必要とされる学則等の変更について、必要な手続きを経ずに変更し、運用していないか。	適	否	該当なし	・過去の申請書類
	(施行令第13条、指定規則第8条)				
		適	否	該当なし	
	·課程				
	・修業年限の変更				
	・教育課程の変更		***************************************		
	・入学(入所)定員の変更		V		
	・ 大子(大州) 定員の変更 ・ 校舎の各室の用途及び面積並びに校舎の配置図及び平面図の変更				
	・実習施設の変更			T	
				=4 .1.	
		適	否	該当なし	

		点検項目		判定		確認書類
		·位置				
		・学則(上記承認が必要な事項を除く)				
7	その他					
	(1)	管理及び維持経営の方法が確実であるか。(指定規則第4条第2項第11号)	適	否	該当なし	· ·学則
		① 養成所の運営に関係する職員の所掌事務及び組織が明確に定められているか。(指導要領第9-1)	適	否	該当なし	•各種規程
		② 養成所の運営に関する諸会議が、学則に基づいた細則に規定されているか。(指導要領第9-1)	適	否	該当なし	•各種書類
		③ 養成所の運営に関する諸書類が保管されているか。(指導要領第9-2)	適	否	該当なし	・職員名簿
		④ 教育環境を整備するために必要な措置を講じているか。(指導要領第9-3)	適	否	該当なし	•出勤簿
		⑤ 運営経費において、講師謝金、図書費等のほか、必要に応じて、機械器具費、専任教員の研修費等を計上しているか。	適	否	該当なし	
		(指導要領第9−4)				
	(2)	専任の事務職員がいるか。(指定規則第4条第2項第10号)	適	否	該当なし	
	(3)	教育活動その他の養成所の運営状況について、自ら評価を行い、その結果を公表しているか。(指導要領第9-5)	適	否	該当なし	
		〇評価については、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書(平成15年)」を参照				
		しているか。(指導要領第9-5)				

点検結果に係るコメント(否となった項目についての原因と改善点等を記載)

- 1-(6) 社会人入試は、2年課程であり配慮しておらず。
- 3-(13) 実習指導教員は確保していない。専任教員の臨地実習指導時間は規定時間内で実施できている。
- 4-(10) 小児看護学実習と在宅看護論実習はそれぞれ2.5時間、6.5時間の学内実習を設けている。同じ学習内容を複数施設でわかれて行うため、 全学生での学びの共有の場としてている。
 - ・平成24年6月14日付の厚生労働省医政局看護課からの「臨地実習における実践活動の場以外で行う学習について」には、「臨地実習に関連したカンファレンス」は臨地実習に含めて差支えないとされている。
- 5-(6) 病院以外の実習が全体の33.5%を占めるのは、母性看護学実習1.94単位が含まれていることが主な要因である。実習環境としては、 病院実習に準じて行えているが、病院実習時間を増やすよう検討を続ける。

	病院	病院以外	学内	
基礎	2	0	0	
成人	2	0	0	
老年	2	0	0	
小児	1.12	0.82	0.06	
母性	0	1.94	0.06	
精神	1.69	0.31	0	
在宅	0	1.86	0.14	
統合	1.83	0.17	0	
合計	10.64単位	5.10単位	0.26単位	
	66.5%	33.	5%	

6 校舎の配置図および平面図の変更がされていない箇所があった。遅延理由を添え、直ちに変更申請した。

※記載要領

①判定は確認書類との突合により実施し、法令に基づき適切に実施されている場合は「適」、そうでない場合は「否」とする。

②確認事項の判定は設置者自らが行うこととするが、補助者を置くことは差し支えない。

なお、補助者を置く場合は、設置者が判定内容を把握しその実施に責任を負うものとする。

実施日:令和2年2月1日 設置者氏名:古川雅典 記載者氏名:加藤真古

2019 年度 合同就職説明会 総括

1. 実施結果

1) 日 時: 平成31年4月18日(木) 13:00~16:45

2) 参加者:1年生27名 3年生3名 合計 30名

3) 会場:2階第1教室(1年生)

4) 目 的:卒業後の就職に向け、東濃西部地域の主たる医療施設を知る。

5) 目標:東濃西部地域の医療施設の概要がわかる。

東濃西部地域で求められる看護師像がわかる

6) 参加病院: 9施設 15名

説明順	参加病院名	参加者			
1	聖十字病院	看護部長:安藤 和徳			
2	高井病院	看護部長:小栗 一好			
3	大湫病院	看護部長:纐纈 富久	OB:園田佐奈恵		
4	東濃厚生病院	看護部長:稲垣 美代子			
5	岐阜県ナースセンター	事業課長:山中多美子	多治見支所:後藤京子		
6	岐阜県立多治見病院	看護部長:東 智美			
7	タジミ第一病院	事務長:佐々木隼人	看護師長:岡田雅代、 同:古野光生		
8	多治見市民病院	看護部長:渡辺よし子	OB:長縄規公子		
9	土岐市立総合病院	看護部長:堀 美智子	東濃厚生病院:稲垣美代子		

敬称略

- 7) 施設選考基準については今年度から下記のとおりとした。
 - 東濃3市にある施設であること、
 - ・本校の卒業生・在学生の就職実績があること。
 - ・学生が安心して働ける職場であること。
 - ・東濃西部地域における無料職業紹介事業ができること。

今年度は、タジミ第一病院、岐阜県ナースセンターが新たに参加となった。

8) 結果と考察

- ・各病院持ち時間20分として、説明15分、質疑4分、移動1分として計画した。
- ・9 施設の説明となり、13 時開始、16 時 45 分終了となった。ただし、休憩時間が 10 分しかなく、学生に緊張を強いるスケジュールになったと考える。次年度は発表方法・内容等を検討し、学生の緊張を和ら げるようにしたい。
- ・時間管理と進行がスムーズにいくために、発表者用に卓上時計の用意と、時間を知らせるタイマーを準備したことにより、どの施設も持ち時間内で説明をしていただけたが、現行の方法では9施設が限度と考える。
- ・事前に各施設に施設概要の協力をお願いしたが、この内容に残業時間、希望の部署には配属は可能かど うか、職場の雰囲気についても書きこめるように改善しておく。
- ・岐阜県ナースセンターの参加は、参加施設から、とても有効だったと意見があった。そして、学生も今後相談できる場所を知り、とても参考になった3人、参考になった21人と,合計24人(92.3%)が参考になったと評価していた。なお、在学中の就職活動・相談は教務主任(学校)が行うことを再度伝えた。

◆ 学生対象アンケート結果より

- ・卒業後の就職先が決まっている学生は12人、決まっていない学生が14人であった。
- ・就職したいと思った施設に参加施設すべてに希望があったことは、今後東濃西部地域での就職定着につながると感じた。
- ・岐阜県ナースセンターについては、ナースセンターの存在や、就職状況などを知る機会となり有効と考え、次年度も継続していきたい。
- ・インターシップ・病院見学の希望者は15人(57.6%)が望んでいることから、次年度はインターシップ・病院見学が施設概要に記載できるように見直しをする。

◆ 施設対象アンケート結果より

- ・「15 分ですべてを説明できないので、学校側から最低この内容は含めてほしい、具体的な希望を頂きたい」という意見があり、次年は改善したい。
- ・施設からの提案として、「本校の卒業生を各施設の説明をする、説明会やインターシップの日程を紹介 し、興味のある学生はそこに参加してはどうか」とあったので、次年度はこの提案を参考に計画をした い。

その他

- ・合同就職説明会に関して学校は各施設に協力をお願いしている立場である。次年度は卒業生の参加もお願いするとなれば、交通費・講師謝金等の予算化を検討が必要と考える。
- ・合同就職説明会の開催日については、実習施調整会議、1 日置いてユニホーム採寸と同じ週にあり、非常にあわただしさを感じたので日程調整の検討をしたい。
- ・学生はスーツで参加してしたこともあり、どの施設からも学生の反応が良く、熱心に真面目に聞いていた ので好印象だったという意見をいただいたので、次年度でも継続していく。

【令和2年度 就職説明会について】

・時期(案):令和2年4月 日()

・対象学生(案):合同説明会(1年生全員)

・スケジュール: 準備から総括まで

月・日	内容
12 月	職員会議: 実施計画の概要案の説明 検討
12月	各病院の看護部長に就職説明会の主旨を説明、参加協力の打診
1月・2月	教務会議・職員会議: 実施計画 検討
2月	施設に就職説明会の依頼文書送付
4月	職員会議・教務会議:最終計画確認 参加施設との調整
4月	1年生にオリエンテーション実施
4月	会場準備、最終職員打ち合わせ、1 年生への準備:: 最終説明
4月:当日	計画に沿って実施、振り返り
5月	教務会議:総括 職員会議:総括

2019年度 オープンキャンパス総括

1. 実施概要

1) 実施日:令和元年7月27日(土)

2) 時 間:受付9:30~ 実施:9:55~12:30

3) ねらい:学校の特徴や雰囲気など当校の魅力をアピールし、学生の確保につなげる

4)参加者

*来場者:39名(うち保護者2名)、欠席者3名 *在校生:15名(2年生11名、3年生4名)

5) 来場者内訳

施設	人 数
多治見市医師会准看護学校	13 名(1 年生:6 名、2 年生:4 名、既卒生:1 名、教員:2 名)
土岐医師会准看護学校	13 名 (1 年生: 4 名、2 年生: 8 名、教員: 1 名)
可茂准看護学校	7名(1年生:2名、2年生:4名、教員:1名)
愛知黎明高校	2 名 (4 年生:1 名、保護者:1 名)
済美高等学校	2名(2年生:1名、保護者:1名)
名古屋市医師会准看護学校	1名(既卒生:1名)
豊田地域看護専門学校	1名(既卒生:1名)

6) 内容

- (1) 学校概要の説明
 - ・学校案内、募集要項をもとに30分で説明した。
- (2) 校内ツアー
 - ・説明内容のシナリオに沿って在校生が20分で校内を案内した。
- (3) 演習体験
 - ・①~⑤を20分で実施した。
 - ①バイタルサインベビー:教員と在校生が説明を行い、参加者全員がモデルに触れた。
 - ②吸引:在校生が説明とデモンストレーションを行い、参加者も体験した。
 - ③点滴:教員が説明し、在校生がデモンストレーションを行い、参加者に見学を促した。
 - ④沐浴:教員と在校生がデモンストレーションを行い、参加者がモデルに触れ沐浴の実際を体験した。
 - ⑤展示モデル:演習室を案内しながら展示モデルを紹介した。
- (4) キャンパスライフの紹介
 - ・学校生活、授業風景をまとめた映像を10分で視聴した。
- (5) 掲示物
 - ・国家試験の年間計画と教材、当校の特徴(アピールポイント)に関する学生アンケートの結果をま とめて、第2教室前廊下に掲示した。
 - ・掲示コーナーに在校生1名を配置し、参加者の質問に答えた。
- (6) 在校生との交流
 - ・在校生を中心に、参加者からの質問に答えながら20分で交流をはかった。
- (7)個別相談
 - ・以下 2 件の相談があった
 - →看護学校卒業後20年以上学習から離れている。進学に必要な学習内容を教えて欲しい。
 - →韓国籍から日本籍を取得する準備中である。教育はすべて日本で行った。入学はできるか。

- 2. ねらいについて (※資料:参加者アンケート結果 参照)
 - 1) 学校の特徴や雰囲気など当校の魅力をアピールする
 - ・在校生による学校紹介のアンケートをもとに、国家試験合格率 100%に向けた当校の取り組みを掲示物に し紹介した。多くの参加者が興味を示していた。
 - ・今年度は、研修参加の教員1名を除く全職員が参加し、マンパワーを確保した。各場面で参加者への配慮ができ、また、准看護学校の教員とも交流することができ、当校での学生の様子もお伝えできた。
 - ・演習室のレイアウトは、体験演習の順路に合わせて時間調整し、できるだけ多くのモデルに触れられるよう声をかけながら案内できた。
 - ・在校生との交流は、概ね学生主体で進行できたが、2年生では答えられない実習などの質問への対応や、途中進行に詰まった時は教員がフォローに入った。直接在校生や教員から話を聞くことで学校の様子がよくわかった、との自由記載があった。
 - ・閉会後は職員と在校生が参加者を見送り、もてなすことができた。
 - 以上のことから、当校の特徴や魅力はアピールできたと考える。

<課題>

・ねらいにそって早期に計画を立て各担当者へ役割分担を提示したが、周知にはいたらず、担当者も進捗状況の確認が十分できておらず開催間際にばたついた。役割分担を明確にするとともに、会議等を活用し進捗状況をしっかり把握し、指示をしていく必要がある。

2) 学生の確保につなげる

- ・今年度は、周辺地域の准看護学校と医療機関へ在校生とともに PR 活動を実施した。その結果、周辺地域の准看護学校からの参加者は全体の 85%であった。また、開催を知る機会は「学校の先生からの紹介」が最も多く、学校への PR 活動は有効であると考える。次年度も継続するとよい。
- ・アンケートの問2の結果から、当校の受験を考えているとの回答が74%あった。さらに今回の参加により 進路を具体的に考えることができた、との自由記載があった。
- 以上のことから、在校生による PR 活動を含めて学生の確保にむけた取り組みができたと考える。

<課題>

・今回、報道関係の来場がなかった。他施設行事の関係なのか詳細は不明であるが、当校の PR につなげる ためにも報道(おりべ等)への呼びかけをしていく。

3. その他

- ・駐車場の案内を事前に通知していなかったため、次年度は、参加者に分かりやすい表示の工夫(プラカード、学生案内への案内図の掲載など)をしていく。
- ・参加者の誘導は、前方入り口に座席表を掲示し教室内へ案内した。前方はスペースが狭く、座席までの移動がしにくかった。後方入り口も活用しスムーズに案内できるよう工夫するとよい。
- ・電気消費を最小限にしたが、エアコン・ポット・雨のため廊下の電気などによりオーバーあり。 交流会会場のエアコンは直前に ON、電気ポットの使用は控えるなど節電対策の強化をしていく。
- ・掲示物をスマホで撮影する参加者がみられた。オリエンテーションにて SNS の取り扱いについて注意喚起を促していく。
 - ・参加者記念品は、入学後も残るような物(校章入りのタオルやクリップボードなど)がよいという 意見があった。次年度検討していく。
 - ・在校生へは、参加協力としてお茶とお菓子を配布した。
 - ・開催時期については、参加者の99%が適切であったとの回答があり、時期としては妥当であった。

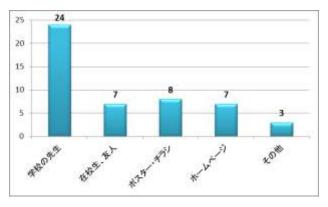
4. 次年度へむけて

- ・在校生との PR 活動の継続
- ・担当者による進捗状況の確認
- 開催案内に駐車場の案内を掲載
- ・在校生の役割分担の見直し
- ・参加記念品の見直し

[資料:参加者アンケート結果]

- 1. アンケート回収 35 名/39 名 (回収率:89.7%)
- 2. 集計結果
 - 1) 選択回答

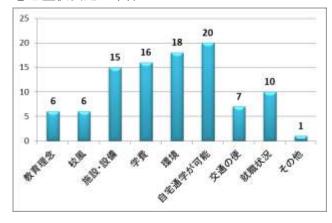
①オープンキャンパス開催を知った経緯



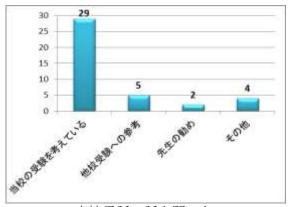
[その他]・今後の進路の参考にしたい

- ・学校設備や教育課程を知りたかった
- 家から近いから

③志望校決定の条件

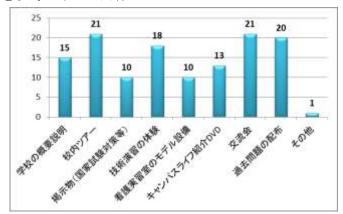


②参加理由



・直接電話で話を聞いた

④参考になった内容



⑤開催時期について

- ・適切であった:34名(学校のない土曜日は参加しやすい)
- ・どちらともいえない:1名(台風と重なった)

2) 自由記載

- ・とても参考になりました。いい体験になった。
- ・実際に吸引や乳児の心音を聞かせてもらい参考になった。
- ・施設協力金が必要なことを知った。
- ・在校生の方や先生の話がとても参考になった。
- ・在校生や先生の話を聞くことで学校の様子がよく分かった。
- ・内容の濃い体験と話を聞くことができありがとうございました。在校生の方も先生もとても笑顔が似合い話しやすかったです。
- ・寮の見学ができるとよかった。
- ・学費の詳細が何となくわかった。
- ・昨年の過去問の配布がありがたかった。可能なら過去何年か分の過去問を見られるといい。
- ・学校の雰囲気や概要が少しわかったので参加してよかった。
- ・技術演習に実際参加できて楽しかった。
- ・楽しく分かりやすいオープンキャンパスをありがとうございました。
- ・本当に来てよかった。准看との差を感じることができ大変参考になった。
- ・まだ1年生ですが、進路を具体的に考えることができた。

令和元年度 防災訓練 総括

1. 消防訓練

日 時:令和元年 10 月 9 日 15:15~16:30 内 容:消防訓練(地震避難・消火・通報訓練)

結果:

1) 避難訓練 15:45~15:51 *15:47 出火(非常ベル) 16:00 全員の安否確認避難終了 今回は、出火場所を2階教材室で設定し、2年生は東階段から1階へ降り、講堂から避難した。 1年生、3年生は2階西側階段から1階へ降り、通用口から避難した。 学校敷地から道路を挟んだ駐車場へ速やかに避難できた。

2) 消火訓練

1年生対象に、昭和建物管理の指導で消火器及び屋内用消火栓の使用訓練を実施した。

3) 防災教育 15:15~15:45 各教室で避難訓練前に各担任が実施した。

【消防署から】

・消防署は、建物の中に人が残っているのか、残っていないのかで対応が変わってくる。 人が残っていないなら消火に専念し、人が残っていると救助に専念する。なるべく早く人員の確認をお願いしたい。

2. 安否確認 配信訓練

日 時:令和元年10月11日(金) 11:25

内 容:安否確認の緊急メールを全学生に配信

結果: 10/18 17:00 までに、学生92名中92名から返信があった。新1年生26人中23人が10月11日中に返信があった。

3. 課題

・昨年度と比較し、全体的にスムーズに行えたので、特筆すべき課題はない。

4. その他

・消防職員より、毎年講評をしているが、今後は気付いたこと修正して欲しいことがあれば、防火管 理者に報告するとのことで、今後は講評はしないとのこと。

2019 年度 教育研修 総括

1. 教育研修の概要

- 1) ねらい
 - ・クラスの仲間と協力し合い、記録に挑戦することを通して達成感や連帯感を味わうとともに、目標 を達成するために必要なチームワークの構築やリーダー・メンバーの役割を学ぶ。
 - ・運動することにより体力の向上・精神的なストレスの発散を目指す。
- 2) 目標
 - (1) 共通の目標に向け、自らの役割を主体的に果たす。
 - (2) 共通の目標に向け互いに協力し、より良いチームワークを築く。
 - (3) 運動を通して自己の健康に関心を高める。
- 3) 対象 26期生(26名)、25期生(1名)

2. 実施結果

1) 研修内容: Good Job! ラック 6 時間リレーマラソン 2019in ナゴヤドーム 42.195km リレーマラソン男女混成

2) 実施日: 令和元年10月19日(土)

3) 時 間:7時15分集合 15時解散

4) 場 所:ナゴヤドーム

5) 学生の出席状況:全員出席(遅刻:1名)

6) 経 費:全て学生の自己負担(¥3,680/人+会場までの交通費)

	金額	
参加費	¥3,500×27 人	¥94,500
手数料	¥1622×3 チーム	¥4,866
	合計	¥99,366

- 7) 引 率: 教員 2 名
- 3. 当日までの活動内容
 - 1) 教育研修委員選出:4月にクラス役員選出時に研修委員4人を選出。

(委員長:1名、委員:3名)

- 2) チーム編成: 9人/チーム×3チーム
- 3) 手続き
 - (1) 申し込み: HPにて5月中旬に申し込む。
 - (2) チーム PR: 10 月初旬に HP より投稿。
- 4) 学生の準備
 - (1) HR:5回
 - (2) 研修委員会:5回

4. 当日の動き

- 1) 集合時間:7時15分、集合場所:CoCo 壱番屋ナゴヤドーム店前
- 2) 開会式、閉会式
 - ・応援席から離れ通路の一角で実施。
- 3) リレーマラソンの実施・応援
 - ・コースは昨年と変更はなく、周り方のみ反時計周りになったため応援しやすかった。
 - ・靴擦れで走れなくなる学生がいたが、チームでカバーしていた。
 - ・体調を崩した学生の報告は無かった。
- 4) その他
 - ・体調が心配な学生に対し、当日主治医と連絡を取り参加を許可した。

5. 目標の達成度について

- ①個人で振り返り → チームで共有 → クラスで共有した。
 - ・目標(1) 共通の目標に向け、自らの役割を主体的に果たすについて

先輩からのメッセージがきっかけとなり、自己の体調に合わせて練習した学生が多かった。身体 的な準備は主体的に行えたと考える。

チームメンバーの個々の役割については、教育研修委員が主導し取りまとめることができず準備 が遅れた。教育研修委員会は定期的に開催していたため、担任は委員と協働し活動の進捗状況を把 握し計画的に活動するための工夫を引き出す関わりが必要だった。

・目標(2) 共通の目標に向け互いに協力し、より良いチームワークを築くについて

大会当日は自分の力量に合わせ互いに協力し合いゴールを目指していた。しかし、"準備段階"からのチームワークに課題が残った。また、学生が振り返った内容は目標(1)と重複するため、目標を見直す。

・目標(3)運動を通して自己の健康に関心を高めるについて

事前の身体的準備やグループワークでの振り返りから、健康への関心は高まったと考える。しか し、教育研修のねらいに「自己の健康に関心を高める」に関するものはなく、教育研修に参加する ことで気づく産物と考えるため、次年度の目標から削除していく。

②チームで共有した振り返りについて KJ 法を用いてキーワードを抽出し、以下の結果を得た。

目標	1G	2G	3G
1) 共通の目標に向け、自らの役	体力づくり	意識的な声掛け	体力づくり
割を主体的に果たす	労い	明確な役割分担	体調管理
2) 共通の目標に向け、互いに協力	応援	思いやり	声掛け
しより良いチームワークを築く	思いやり	体調管理	達成感
3) 運動を通して自己の健康に	継続	目標	運動の継続
関心を高める。	心のリフレッシュ	継続	食生活

6. 次年度への課題

- 1) 各チームが計画的に活動できる工夫を学生から引き出していく。
- 2) 目標の検討

令和2年度 推薦・一般入学試験 総括

1:受験状況

令和2年度入学者選考				試験結果						
	受験者数	合格 者数	不合格者	補欠 者		看護学 結果	面接結果	国 語 結果	数学結果	合計
推薦	8人	7	1	0	平均	52.60	A:3		1	
入学受験	(2)	(2)	(1)		最高	78	B:4			
					最低	48	C:1			
一般	28 人	25	3	0	平均	140.57	A:7	70.25	48.36	259.18
入学受験	(15)	(12)	(2)		最高	172	B:7	86	98	
	出願 29		欠席 1		最低	104	C:	54	4	
							14			
二次	3人	1	2	0	平均	130.7	A/B0	66.7	36.0	233.33
入学試験	(2)		(2)		最高	148	C2	77	71	
	出願 4		欠席 1		最低	120	D1	59	18	
	39人	33	6	0						
計	(19)	(14)	(5)							
	出願 41		欠席 2							

(男子数)

2:受験者出身校

准看学校名	推薦	一般	2 次	3 市以外の住所地の学生
	受 験	受験	出願	
	者数	者数	者数	
多治見市医師会准看護学校	1	6		春日井2、名古屋1、関1、
土岐医師会准看護学校	6	13	2	中津川 3、恵那 1、三好 1、日進 1、土岐 2
可茂准看護学校	0	4	1	美濃加茂1、可児2、小牧1、八百津町1
羽島准看護学校	0	1		一宮 1
愛知黎明高等学校	1	4	1	尾張旭、北名古屋、犬山、稲沢、鈴鹿、刈谷:各1
豊田地域		1		豊田 1
合 計	8	29	4	(41 人出願、39 人受験)・・H30 (出願 41 人受験 36)

3: 東濃 3 市出身地の受験人数・・・16 人 (+1)

- ・推薦・・・4 人 (多治見 0、瑞浪 1、土岐 3)
- ・一般・・・12人(+3)(多治見1、瑞浪5、土岐6)
- 二次・・・2人(土岐 2)
- 4 推薦状況

学校推薦5名、施設推薦は3名

- 5 試験結果
 - ·推薦入学試験: 1名不合格
 - ・一般入学試験: 3名不合格。(1名は1名は出願後辞退の旨あり、未受験で不合格)

25 人が合格。

·二次入学試験: 1名合格。

- 6 結果と考察
 - 1) 平成31年度面接は、平成31年度から打ち出した、アドミションポリシーに沿って、面接をした。出願者数は41人と昨年と変わらなかったが、受験者数は3人増加した。
 - 2) 市内准看学校からは推薦と一般で19人受験(51%)を占め、准看学校で積極的に受験指導 していただいた結果と考える。
 - 3) オープンキャンパスの意義

推薦:8名中3名が令和元年・30年度開催に参加し、准看学校既卒の3名は不参加。 一般:29名中14名が令和元年・30年度開催に参加し、本校の受験動機につながっている。 愛知黎明高校は本年度進学ガイダンスに教員が参加。6名が受験し2名が入学した。

- 4) 試験運営方法等
 - ・推薦・一般とも時間内に手続きを時間通りに試験と面接も問題なく実施できた。
- 5) 試験問題

<看護学>

・正答率が悪かったのは以下の通りである。 推薦では自殺統計問題、一般ではウィルス、公的扶助やホルモン、栄養学などでの正答率が30% 代の正答率だった。

<国語>

- ・看護師国家試験は、状況設定問題以外にも、長文が出され、出題の意図を考えながら解いていく 問題が多くなってきていることから、論理的に考えるには国語力が重要と考える。
- ・国語平均点と数学平均点との開きがみられた。

<数学>

・問題は図形・方程式・因数分解、確率問題で基本的なものであるが、年々、数学の学力が低下している。

<面接方法>

- アドミッションポリシーをもとに面接した。
- ・試験官の質問に対し、的確に答えることができない学生が見られた。

7 次年度への課題

- 1. 各科目試験結果と合否の考え方
- 2. 数学の学習支援